

《優秀賞》

「戒石銘を知って」

小浜中学校 一年 菅野 夏貴

私は二本松市に生まれました。二本松市にはたくさんの魅力があります。中でも、「戒石銘」は二本松に古くから伝わる大切な教えます。私は国語の授業で初めて戒石銘について知りました。かなり昔のものなのに、今も字がはっきりとしていて、大石もこわれていないことにとっても驚き、人々がその存在を大切にしていることを感じます。戒石銘は、

「お前が上からいただく給料は民の汗と脂の結晶である。下々の民は虐げやすいけれども神をあざむくことはできない」

という意味の言葉です。そんな言葉を残した、五代藩主の丹羽高寛公は、戒石銘を通して、誰かに支えられて生きているということを感じたのだと思います。そう感じたのは、

「お前が上からいただく給料は民の汗と脂の結晶である」というところを読んだ時です。

私も、人は誰かに支えられないと生きてはいけないと思っています。私も実際にこの人がいないと生きてはいけないと思った出来事があります。それは、私の母が末っ子の妹を産んで帰ってきたとき

のことです。母が妹を産むために入院してしまったとき、私は父と一緒に毎日頑張って家事をしました。洗濯物をたたんだり、夕飯の準備を手伝ったり、兄弟たちの面倒をみたりとたくさん頑張って、その分毎日疲れていました。その時私は、

「お母さん、はやく帰ってこないかな。」

と何度も思いました。そして、母が無事に妹を産み退院して帰ってきたとき、とても安心しました。母が帰ってきたら、とてもつらかった家事が半減しました。とても助かりました。父もそう思っていたと思います。このような家事を毎日文句も言わずに続けている母にはとても驚きました。それと同時に、これまで楽しんでこられたのは、母のおかげだったのだなと実感しました。帰ってきた時、母は私をほめてくれました。ほめられた時に、このような母の心の広さにもいやされていたのだなとも思いました。

このように、自分を支えてくれている人は身近にいたり、はたまた目の届かないところにいたりします。私の場合、家族全員と今まで学習を教えてくださいました先生方や私のクラスメイトなど、もったくさんの人が私を支えてくれています。その人たちのおかげで、今の私があるのです。誰かに支えられているからこそ生きているということ、あのような短い言葉で表せている戒石銘は素晴らしいと思います。私は、自分を支えてくれている人たちに感謝して、今度は自分が誰かを支えたい、手を貸してあげたいと思う気持ちをも

ち、それを行動に移すことが大切だと思っています。私が感謝をしなければならぬ人は、今まで私を助けてくれた、家族や先生方、クラスメイトなど、もつとたくさんいます。もちろん、このようなことを教えてくれた、丹羽高寛公にも、とても感謝していますし、尊敬もしています。丹羽高寛公は、後世に伝えるような形で支えてくれていたのだと思います。私も、丹羽高寛公のように誰かを支えたり、誰かが頑張っているからこそ生きていけるということ伝えられるようになりたいです。人は誰かに助けてもらわないと生きていくことは不可能です。例えば、スーパーなどに売っている野菜は、育ててくれる農家の方やそれを売ってくれるスーパーの方など、たくさんの方々が協力することで消費者に届けられているのです。このように、物事を一人で成しとげることが不可能であり、必ず誰かに助けられているのです。私は、このことを忘れずに今度は、自分が誰かを支えられるように、何事にも積極的に取り組んでいきたいです。